

ソーシャルメディアを活用した ワークスタイル研究とキャリア支援

白土由佳*1

Email: SHIRATSUCHI_Yuka@hj.sanno.ac.jp

*1: 産業能率大学経営学部

◎Key Words ソーシャルメディア, キャリア支援, ワークスタイル

1. はじめに

キャリア教育の重要性が着目され、小・中・高等学校では、それぞれの段階に応じ地域や学校の特色を活かした学びが求められている¹⁾。それらの段階を経て、大学には、各々の学生が自分らしいキャリアを描くことができるような学びの場としての機能が必要とされている。

筆者の所属する産業能率大学は、特にキャリア支援を特色に掲げており、キャリアセンターと教員間で密に連携を取りながらキャリア教育の場の提供を試みている。経営学部3年次・4年次生向け科目「進路支援ゼミ」では、担当教員それぞれの専門を活かした業界研究や自己分析等を通じて、履修者に沿った進路支援を目指している。

段階に応じたキャリア教育の成果もあり、入学当初から自身の将来像やキャリアプランが明確な学生も多い。一方で、社会人としての自分についてリアリティを持って想像できない学生や、自身のキャリアを単に新卒就職先でしか考えられない学生も少なくない。しかし、キャリア教育の本来の目的は、生涯を通じたライフプランに寄り添った、自分らしいキャリアプランを描くための学びの提供である。就職活動の時期が来たことを理由に新卒就職先を選ぶだけでは、その先、自分らしい生き方を支えるキャリアを積み上げていくことは難しいだろう。

以上のように、初等教育から高等教育にわたってキャリア教育は段階に応じた実践がなされているが、大学における就職活動という短期目標の存在によって、それまでのキャリア教育が生涯を通じたキャリアプランから断絶される可能性が危惧される。本研究では、新卒就職先を単なる短期目標としてではなく、学生それぞれにとってのライフプランの一部として位置付けるための試みについて、実践を通じ検討する。

2. 目的

本研究の目的は、大学におけるキャリア支援を、新卒での就職という短期目標ではなく、ライフプランの一部として位置付けることにある。

この目的達成のため、本研究は大きく3段階に分けることができる。それぞれの段階における小目的は、第1段階では自身のライフプランの構築、第2段階ではライフプランに沿ったワークスタイルの探索、第3段階では志望企業群の方向性の理解として位置付けら

れる。

3. 取り組みの全体像

3段階にわけられる本研究の取り組み下記に詳細を説明する。

第1段階として、学生各々による自身のライフプラン作成がある。ここでは、今後、自身がどのように生きていきたいかを文章化する。

第2段階では、自身のライフプランに適したワークスタイルの検討を行う。例えば、20代前半で多少厳しい職場で経験を積み、その後独立をしたいのか、あるいは福利厚生を重視し安定した企業に一生貢献していきたいのか。ワークスタイルはライフプランと密接に関係しており、かつ多様な存在である。本研究では、特に本学のキャリア支援を念頭に置いていることから、本学の主な就職先一覧を対象として、ワークスタイルの多様性を類型化し、自身のライフプランと照らし合わせてワークスタイルを検討していく。

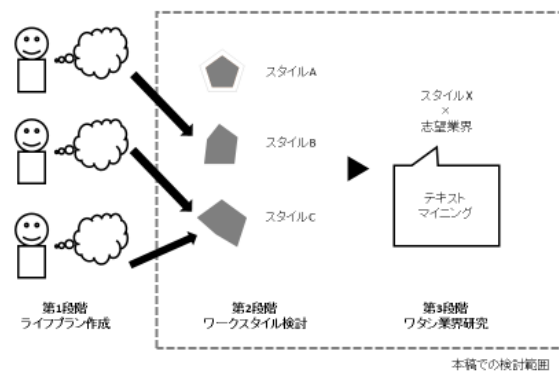


図1 取り組みの全体像

第3段階では、自身の求めるワークスタイルを前提とした志望企業群について、有価証券報告書や就職活動サイトのテキストマイニングを行う¹⁾。特に、有価証券報告書が企業理解のために欠かせない存在であることは言うまでもない²⁾ことだが、それ以外にも、これまでに様々な目的のために、報告書内容のテキストマイニングが研究されている。例として、トレンド情報抽

¹ 志望する企業の上場状況等によって情報源が異なるため、分析対象とするテキストは志望企業の特徴に応じて適宜使い分ける。

出^③や企業評価分析^④、利益伸び率との関連^⑤が挙げられる。これらの先行研究を参考に、本研究では特にキャリア支援を目的として業界研究を行っていく。

本稿は、図1に示すように、第1段階のライフプランには多様性があることを前提に置き、第2および第3段階の取り組みについて検討していく。

4. 第2段階：ワークスタイル検討

自身のライフプランに適したワークスタイルを模索するためには、まず働き方自体にどのような多様性があるのかを理解することが求められる。本研究では、特に本学学生に対するキャリア支援という側面を重視し、本学卒業生の主な就職先一覧を対象として、多様なワークスタイルの詳細をデジタルブックとしてまとめた。

4.1 分析対象データ

分析対象企業は、本学卒業生の主な就職先一覧に基づく。ワークスタイルを現場のリアリティから理解するため、就職・転職系クチコミサイト「VORKERS²」のデータを活用することとし、主な就職先一覧の中でVORKERS上にクチコミの掲載されている365社を分析対象企業とした。

表1に業界内訳を、表2に上場内訳を示す。

表1 業界内訳

業界	企業数	割合
小売り	98	26.9%
商社・金融	57	15.6%
IT・情報処理	50	13.7%
サービス	48	13.2%
製造	44	12.1%
建設・不動産	25	6.9%
飲食・宿泊	20	5.5%
その他	23	6.3%
総計	365	100.0%

表2 上場内訳

上場	企業数	割合
非上場	213	58.4%
東証1部	115	31.5%
東証2部	18	4.9%
JQ	15	4.1%
東証マザーズ	3	0.8%
名証2部	1	0.3%
総計	365	100.0%

ワークスタイルの多様性は、VORKERSに登録されるクチコミの、社員による会社評価平均スコアに基づく。スコアは、総合評価以外に下記の10項目に渡る。残業時間および有給休暇消化率以外は、5点満点で評価される。

- ・ 待遇面の満足度
- ・ 社員の士気

- ・ 風通しの良さ
- ・ 社員の相互尊重
- ・ 20代成長環境
- ・ 人材の長期育成
- ・ 法令順守意識
- ・ 人事評価の適正感
- ・ 残業時間(月間)
- ・ 有給休暇消化率(%)

4.2 分析結果

分析対象企業の365社について、口コミデータとなる10のスコアを標準化し、スコアの傾向が似た企業をまとめるためにクラスタリングを行った。クラスタリングでは、R言語を用い、ykmeansパッケージ^⑥で行った。ykmeansパッケージは、非階層的クラスタリングの1つであるk-means法の改良版で、クラスタリングの複数回試行に基づき、特定の変数に関してクラスタ内での分散が小さくなるクラスタ数を採用するものである。今回は、総合評価の分散が小さくなるように定め、クラスタ数を7以上15以内として設定し試行した結果、12クラスタが生成された。

12クラスタに関して、各クラスタに所属する企業や会社評価平均スコアのクラスタ内平均値に基づき、クラスタ名を付与した(表3)。

表3 ワークスタイルの12クラスタ

クラスタID	クラスタ名	総合評価	残業時間(月間)	有給休暇消化率%	待遇面の満足度	社員の士気	風通しの良さ	社員の相互尊重	社員の長期育成	法令順守意識	人事評価の適正感
1	地元を支える堅実な企業	2.18	36.6	39.2%	1.85	2.32	2.41	2.35	2.15	1.87	2.81
2	ハードBUIT成長と評価	2.36	73.7	14.9%	2.08	2.40	2.19	2.45	2.73	1.80	2.10
3	仲間と共に最高のサービスを	2.53	46.8	7.3%	1.82	2.76	2.28	3.37	2.79	2.28	2.88
4	生活を支える身近な企業	2.66	45.6	33.9%	2.31	2.91	2.83	2.94	2.83	2.20	2.73
5	生活の中の有名企業	2.77	35.0	42.3%	2.55	2.58	2.76	2.87	2.99	2.45	3.31
6	CMでおなじみ生活密着企業	2.80	68.3	20.8%	2.64	2.83	2.75	2.94	3.56	2.08	2.57
7	実力主義の充実職場	2.92	98.6	21.8%	2.10	2.81	3.26	3.51	3.66	1.94	2.83
8	20代成長環境NO.1	3.08	92.4	16.0%	2.71	3.22	3.25	3.35	3.92	2.38	2.76
9	各業界の代表的有名企業	3.10	56.8	20.6%	2.88	3.13	3.09	3.19	3.73	2.40	3.05
10	安定の優良企業	3.16	39.3	28.3%	2.89	3.20	3.19	3.16	3.61	2.54	3.47
11	長期的視野を尊重する企業	3.23	35.8	46.5%	3.21	2.97	3.16	3.31	3.32	2.88	3.98
12	のびのびと充実した職場	3.38	38.3	32.8%	2.95	3.66	3.51	3.83	3.62	2.56	3.72
13	ワークライフバランス重視企業	3.66	17.6	66.0%	2.95	3.40	3.69	3.54	4.28	3.78	3.86
平均	-	2.92	49.1	32.1%	2.66	2.90	2.94	3.09	3.30	2.41	3.17

2 「社員による会社評価」就職・転職クチコミ・リサーチ VORKERS (<http://www.vorkers.com/>)

出する（表5）。

5. 第3段階：ワタシ業界研究

取り組みの第2段階として説明した多様なワークスタイルを前提に志望企業一覧を作成し、第3段階では、志望企業群の有価証券報告書あるいは就職活動サイト等からキーワードを抽出し、自身の志望する企業群の方向性を理解する「ワタシ業界研究」を行う。一般的な業界研究が業界全体の傾向を分析するのに対し、自分だけの志望企業業界という狭い範囲の業界研究を行うという意味で「ワタシ」と呼称する。

ワタシ業界研究の手順は、以下の通りである。

- i. 志望企業一覧を作成する。
- ii. 志望企業の有価証券報告書に掲載されている事業の状況より「対処すべき課題」本文をデータとして収集する³。有価証券報告書がない場合、就職活動サイトの事業概要を収集する⁴。
- iii. 収集したデータを分かち書き⁵のし、キーワードを抽出する⁵。
- iv. 抽出されたキーワードを企業ごとに比較し、自身の志望企業群の方向性を分析する。

6. 取り組みの例

本取り組みは、2015年度前学期に筆者が担当する3年次生向けキャリア支援科目「進路支援ゼミ(3年次ゼミI)」にて実践中である。そのため、学生によって一連の取り組みを終えた例はまだなく、ここでは学生向けに配布する教員作成例を示す。

6.1 志望企業一覧

表4に、IT・情報処理、およびインターネット業界を中心とした志望企業一覧例を示す。

表4 志望企業一覧の例

企業名	ワークスタイル
株式会社NTT データ	長期的視野を尊重する企業
株式会社ドコモCS	
株式会社カカコム	
エン・ジャパン株式会社	各業界の代表的有名企業
株式会社インテリジェンス	のびのびと充実した現場
株式会社博報堂アイ・スタジオ	20代成長環境NO.1
株式会社ダウンゴ	実力主義の充実職場
GMO インターネット株式会社	
株式会社ディー・エヌ・エー	
楽天トラベル株式会社	

6.2 キーワード抽出

表4に示した企業の有価証券報告書「対処すべき課題」より、各企業の方針におけるキーワードを抽

表5 キーワード抽出の例

単語	出現頻度
強化	36
サービス	33
提供	30
拡大	27
市場	23
向上	22
買付	22
開発	19
マーケティング	19
基盤	18
海外	16
インターネット	14

全体の概観としては、IT・情報処理およびインターネット業界特有の単語として「サービス」「基盤」「インターネット」等が見られる。インターネット上で開発するサービスの構築に関して、システム基盤の強化と新たなコンテンツの開発等はどの企業でも共通の課題となっているのだろう。

例として「インターネット」の主な内容を確認する。

GMO インターネット株式会社

- ・ 環境変化の激しいインターネット市場
- ・ 「総合インターネットグループ」としての地位を確立
- ・ インターネットインフラ事業、インターネット広告・メディア事業、インターネット証券事業
- ・ 『すべての人にインターネット』を基本理念に

株式会社ディー・エヌ・エー

- ・ グローバルNo.1のモバイルインターネットカンパニーを目指すビジョンの実現
- ・ グローバルインターネットプレイヤーとして企業価値を持続的に向上
- ・ 変化の速いインターネット市場の動向
- ・ SNS機能やインターネットオークション

楽天トラベル株式会社

- ・ 今後も大きな発展が見込まれるインターネット業界
- ・ ビジネスモデル「楽天経済圏」を展開し、インターネット産業の発展と経済成長への貢献
- ・ EC及び旅行予約をはじめとしたインターネットサービス

このように見ると、まずインターネット業界は変化が極めて早く、その動向をいち早くキャッチしていくことが、どの企業にも求められていることが良くわかる。一方で、各企業のポジショニングに関しては、GMO インターネット株式会社はインフラも含む総合グループ、株式会社ディー・エヌ・エーはモバイル中心、楽天トラベル株式会社はEC中心という差が見て取れる。これらは各企業の現時点での強みと考えられ、今後もこの強みを活かしていく一

³ EDINET 金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム (<http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/>)を利用

⁴ リクナビ2017 (<http://job.rikunabi.com/2017/>)を利用

⁵ Google スプレッドシートに TinySegmenter を組み込んだ分析シート (<http://shirayuca.github.io/works/industry-map.html>)を筆者作成、利用

方で、更なる他分野での発展も求められるだろう。

上記は1キーワードのみの例だが、実際の取り組みでは複数キーワードを取り上げ、キーワード間の関連性を見ていくことで、ワタシ業界研究を行っていく。

7. 学生による実践と類型化

続いて、本取り組みの学生による実践を通じての知見を示したい。まず、各学生が作成した志望企業一覧を検討し、次いで、取り組みを分類する。

7.1 学生別の志望企業一覧

各学生が作成した志望企業一覧を表6に示す。従来の就職活動で想定される通りに業界のみを重視する学生もいれば、特定業界の中でもワークスタイルを重視する者、あるいは業界が多岐にわたる学生など様々である。

表6 学生別志望企業一覧

学生	ワークスタイル	業界	データ
A	ワークライフバランス重視	小売り・サービス・飲食	就職活動サイト
B	のびのび充実	小売り・サービス・飲食	就職活動サイト
C	(様々)	保険・商社	有報
D	(様々)	小売り・サービス・飲食	就職活動サイト
E	のびのび充実・長期的視野	製造・その他	有報・就職活動サイト
F	(様々)	小売り	有報・就職活動サイト
G	(様々)	着物・小売り	就職活動サイト
H	長期的視野を尊重	IT・情報処理	有報
I	(様々)	スポーツ	就職活動サイト
J	長期的視野を尊重・実力主義	IT・情報処理・金融	有報

7.2 取り組みの分類

続いて、志望企業一覧に基づいた、学生の志望スタイル/志望業界分類を表7に示す。

表7 志望スタイル/志望業界分類

		志望ワークスタイル	
		特定	複数
志望業界	特定	E, H, J	G, D, F, G, I
	複数	A, B	

8. おわりに

本研究は、大学におけるキャリア支援を新卒での就職という短期目標ではなく、ライフプランの一部とし

て位置付けることを目的としている。具体的実践として、第1段階として学生各々がライフプランを作成、それを前提として第2段階でワークスタイル検討、第3段階にてワタシ業界研究を行った。最後に、今後の展望について考えたい。

まず、各学生における本研究の価値について考察する。3段階を通じた実践によって最も効果的なサポートを感じられる学生は、図2のア部に示す、特定業界と特定ワークスタイルの両者が明確化されるタイプの者だと考えられる。従来の特定業界に対する就職支援を越え、ワークスタイルという観点からもキャリアを検討でき、かつ企業を絞り込んだ業界研究を行えるという意味において、ア部に該当する学生には本研究のような支援は効果的であると考えられる。これは、表7におけるEHJの3名である。

一方、図2のイ部に示すような特定業界にのみ関心のある学生は、従来のキャリア支援で十分という可能性もある(表7のCDFGI)。

さらに、図2のウ部に示す、特定ワークスタイルかつ広範な業界に関心のある者に関しては、ワークスタイルというキャリア支援の観点から効果的である一方、本論文で紹介した志望企業群のテキストマイニングは相応しくないと考えられる(表7における学生AB)。このような学生に対する別の形の企業研究の方法を、今後検討していきたい。

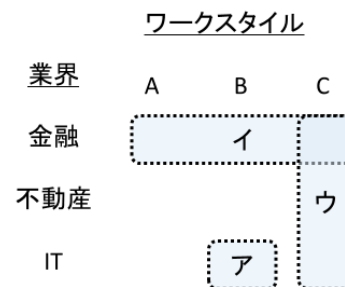


図2 学生の取り組みのタイプ

参考文献

- (1) 文部科学省：“キャリア教育”，
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/, (2015/06/01 アクセス).
- (2) 澤田晃宏：“内定には「有報」を読み”，アエラ，2011年10月31日号, pp.28-31 (2011).
- (3) 白井康之, 小関悠, 小池亜弥：“テキストマイニングによるトレンド情報抽出環境の構築”，三菱総合研究所所報, 51号, pp.110-123 (2009).
- (4) 白田佳子, 竹内広宜, 荻野紫穂, 渡辺日出雄：“テキストマイニング技術を用いた企業評価分析：倒産企業の実証分析”，年報経営分析研究, 25号, pp.40-47 (2009).
- (5) 吉田慎一郎, 中藤哲也, 御手洗秀一, 廣川佐千男：“利益伸び率に着目した有価証券報告書のテキストマイニング”，情報処理学会研究報告 IPSJ SIG Technical Report (2012).
- (6) Yohei Sato：“Package ‘ykmeans’”，
<http://cran.r-project.org/web/packages/ykmeans/ykmeans.pdf>, (2015/06/04 アクセス).
- (7) Taku Kudo：“TinySegmenter: Javascript だけで書かれたコンパクトな分かち書きソフトウェア”，
<http://chasen.org/~taku/software/TinySegmenter/>, (2015/06/09 アクセス).